

忠別ダム建設事業における広報活動について

北海道開発局 旭川開発建設部 忠別ダム建設事業所 調査設計班 入交 泰文

1 はじめに

忠別ダムは、石狩川の支川である忠別川の上流部に建設中の洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水の供給、水道用水の供給及び発電を目的とした多目的ダムである（図 - 1）。

ダム形式は、重力式コンクリートダムとフィルダムの2つの形式からなる複合ダムであり、完成すると複合ダムでは日本で最大規模のダムになる。

当ダムは、昭和59年度に建設事業に着手している。コンクリート部の打設工事は平成7年度から、フィル部の盛立工事は平成12年度からそれぞれ開始されており、平成18年度の完成を目指し工事を推進している。平成15年度末における進捗率は、コンクリート部で100%、フィル部で約90%である。

貯水池となる地域は、東川町、東神楽町及び美瑛町の3町にまたがっており（図 - 2）、ダム下流約27kmには、北海道第2の都市であり、平成12年度に中核市に指定された人口約36万人の旭川市が位置している。また、ダム上流域は大雪山国立公園となっており、旭岳、天人峡等に年間約100万人の利用者が訪れている。

本報告は、これらの立地条件や事業の進捗状況を踏まえ、地域住民や当該地域への来訪者に対し、ダム事業の必要性やダムの役割等を知ってもらうために行っている広報活動等について報告するものである。

2 取り組み状況

2.1 インフォメーションセンターの開設

インフォメーションセンターは、ダム本体工事が最盛期を迎えた平成13年度から開設している。設置目的は、事業を円滑に進めるために、地域住民を始めとする多くの人々にダムの役割やその効果について理解を深めてもらうためである。

設置位置は、ダム左岸側の堤頂部の広場であり、当センターのほか展望台、トイレ及び休憩施設を設置している。当センター及び展望台には、当ダムの目的や、構



図 - 1 位置図



図 - 2 完成予想図



写真 - 1 インフォメーションセンター内

造及び特徴的な工法等についてのパネルを設置しており、ダム建設工事の現場を間近で見ながら、専門の案内係による説明を受けることができるようになっている。また、当センター内には、ダム周辺の模型、洪水シミュレーション模型、事業紹介ビデオ及び当ダム周辺で見られる動植物の写真等を展示し、幅広い年代の方に楽しみながら理解できるよう工夫している（写真 - 1、2）。



写真 - 2 展望台

当センターは、平成13年6月に開設して以来、11月から翌年4月までの冬季閉鎖期間を除き毎年開設している。年度別の来場者数は図 - 3 のとおりであり、平成14、15年度は1万人を超える来場者数となっている（平成16年度は7月末時点）。

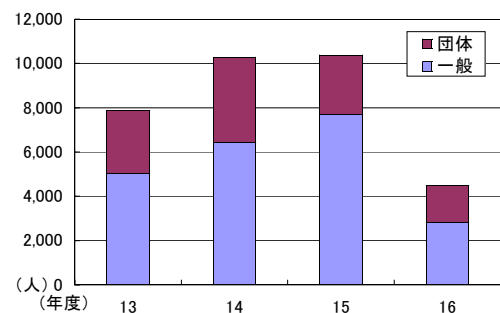


図 - 3 インフォメーションセンター年度別来場者数

当センターの周知方法としては、開設時の報道機関への投げ込み、ホームページへの掲載及び周辺市町の広報誌への掲載により行っていたが、より多くの人々に知っていただくため、平成14年度よりリーフレットを作成し周辺市町の関連施設等に設置していただいている（図 - 4）。これによる効果だけとは言えないが、一般の見学者数は増加してきている。見学者の中には、「こんな場所があったんですね。もっとPRすればいいのに。」という声も多く、平成15年度からは、リーフレットの設置先を拡大し、周辺観光施設等にも設置していただいている。さらに、設置していただいた周辺市町や周辺観光施設等のパンフレット等をセンター内に設置し、お互いに連携しPRを図っている。



図 - 4 リーフレット

また、来訪者に対し行っているアンケート調査（平成15年度分集計）によると、来訪の理由は、「天人峡・旭岳方面に行く途中（帰る途中）にあったので初めて寄ってみた」という人が半数を占めており、当センターを知って訪れる人とほぼ同数になっている（図 - 5）。このことから、今年度はリーフレットの配布先をさらに拡大し、当センターの知名度を高めることにより、さらなる来場者の増加を図っているところである。

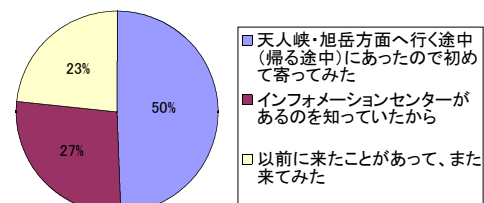


図 - 5 インフォメーションセンター来訪の理由

当センターは、ダム建設工事の進捗に伴い、平成17年度で閉鎖、撤去の予定である。しかし、その機能は現在建設中であるダム管理所に

引き継ぐこととしており、ダム管理移行後もその役割を果たしていく予定である。

2.2 親子見学会の実施

親子見学会は、地域住民にダム建設事業への理解と関心を深めていただくために、周辺の東川町、東神楽町、美瑛町及び旭川市の親子を対象に平成11年度から毎年実施している。

平成11年度からの参加者数は図 - 6 のとおりであり、例年100名から150名程度の参加者数となっており、なかには毎年楽しみにしている参加者もいる。

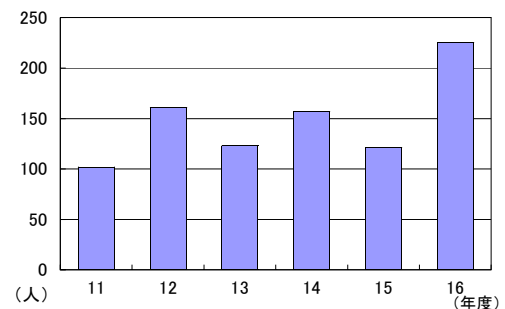


図 - 6 親子見学会参加者数

今年度は、前述のインフォメーションセンター、仮排水路及びモータープールと呼ばれる建設機械の整備場所の見学をしていただき、見学後は、早強セメントによるキャラクター作りや測量体験を行った。

普段では見ることのできないダム工事現場や大型の建設機械、ダム完成後は湖の底になってしまう場所からの風景に参加者の多くが満足した様子であった(写真 - 3、4)。特に子供達には大型の建設機械の体験搭乗や、早強セメントによるキャラクター作りが人気であった。今年度は夏休み中の実施であったため参加者数も多く、また、「自由研究の良い題材になりました。」という声も多くいただいた。



写真 - 3 建設機械

ダム建設工事の進捗に伴い、来年度以降のダム見学会の実施内容についてはまだ未定である。しかし、平成18年度のダム完成まで、また、ダム管理移行後も、このような見学会を実施していければと考えている。



写真 - 4 仮排水路

2.3 その他の広報活動

上記以外の広報活動として、広く見学者を受け入れていることがあげられる。当ダムでは、周辺行政機関をはじめ、市町議会、町内会、老人会、小・中学校及び高等学校等多くの方々に見学に来ていただいている。今年度は、フィル部の盛立工事の最終年であり、大型建設機械も見ることができなくなってしまうことから、周辺の小・中学校に対し、総合学習の一環として現場見学のPRを行っている。また、北海道開発局内での出前講座としても登録しており、より多くの方に建設中のダムを見学してもらえよう考えている。

次に、当ダムでは、ホームページの開設も行っている。平成14年度より「忠別ダムの大冒険」(<http://www.as.hkd.mlit.go.jp/tyubetu/index.html>)と称して旭川開発建設部ホームページ内に公開している。このホームページは幅広い年齢層に楽しんでもらえるよ

うに、迷宮を探索しながら当ダムが理解できるよう作成している。また、同ホームページは、インフォメーションセンター内でも体験できるようになっている。

3 水源地域ビジョンの策定

忠別ダムでは、平成18年度の完成に向け水源地域ビジョンの策定を開始している。平成16年1月から忠別ダム水源地域ビジョン検討会による討議を開始し、平成16年7月末時点で5回の検討会を実施している。今後、さらに数回の討議を重ね、今年度中のビジョン策定を目指している。

検討委員は、関係行政機関から13名、周辺の東川町、東神楽町、美瑛町及び旭川市の住民から公募による22名の計35名となっている。検討委員の公募にあたっては、全国的にも珍しい建設中のダムでのビジョン策定であること、また、周辺市町が複数あることから、多くの方に応募していただき、最終的には抽選により22名を選出した。

検討会は、行動計画策定に向けた「珠だし」作業をほぼ終え、今後、具体的な「行動計画」や「目標」を策定していくところである。

本検討会では、毎回ニュースレターを作成し、検討委員や関係機関に配布している（図-7）。今後は、広く一般の方にも水源地域ビジョンを知っていただくため配布先を拡大し、PRしていきたいと考えている。



図-7 ニュースレター

4 おわりに

今日、公共事業を推進するには、地域住民の理解と協力が不可欠であり、そのためには、その事業の必要性や効果等に対し説明責任をどう果たしていくのが課題の一つとなっている。

当ダムでは、前述のとおり広く一般の方に実際にダムを見てもらうことにより、公共事業に対する説明責任を果たすことが出来ていると考えている。インフォメーションセンターや親子見学会で実施しているアンケート結果を見ても、ダムに関する認識は良いものになっている。

当ダムは、平成18年度の完成を予定しているが、ダム完成後においても今まで以上にその必要性や役割を知ってもらうことが必要であると考えている。現在策定中の水源地域ビジョンにおいても、将来、地域住民と一体となりダムの役割や周辺地域の情報、住民活動等をPRできるようになることを期待している。

今後、これらの活動に応える具体的な施策を検討していくことが重要になると考えている。